

令和7年度（2025年度）第1回東海市緑化審議会会議録

1 開催日時

令和8年（2026年）2月6日（金）午前10時から正午まで

2 開催場所

東海市役所 403会議室（4階）

3 次 第

(1) 市民憲章唱和

(2) 市長あいさつ

(3) 委員自己紹介

(4) 事務局職員紹介

(5) 審議事項

ア 諮問「東海市緑の基本計画の改訂について」

イ 保全地区・保存樹木の指定解除について

(6) 報告事項

ア 緑化、花いっぱい施策の実施状況について

イ 緑の基本計画の改訂について

(7) その他

4 出席委員（敬称略）

岡室 美恵子

久野 兼幸

岸本 良彦

齋藤 誠

橋山 卓弘

長谷川 明子

吉川 洋行

杉江 敏幸

中村 悦朗 計9名

5 欠席委員（敬称略）

丹羽 稔 計1名

6 事務局

都市建設部長 若狭 明朗

花と緑の推進課課長 西野 貫喜

花と緑の推進課主幹 初山 剛次

花と緑の推進課主幹 戸澤 哲也
花と緑の推進課主任 加古 雄一
花と緑の推進課主任 加藤 祐基
花と緑の推進課主事 星川 実来

7 公開、非公開の別

公開

8 傍聴者の数

なし

9 内 容

(1) 市民憲章唱和

(2) 市長あいさつ

花田市長から挨拶があったもの。

(3) 委員自己紹介

(4) 事務局職員紹介

(5) 審議事項

ア 諮問「東海市緑の基本計画の改訂について」

事務局から説明後、諮問されたもの。

また、以下の質疑応答があったもの。

【質疑応答】

長谷川委員：令和7年度時点の現況調査で緑の質について問われているか。

また、市の上位計画の中でどう緑化をしていくのか方向性を改めて教えて欲しい。

事務局：現行計画の時点では緑の質より緑の量が問われていた。緑の質に関しては、人と自然の共生より、レクリエーションとしての緑や防災林としての機能が質として評価されていた部分がある。上位計画での緑化の方向性としては、生物多様性の保全、カーボンニュートラル、CO2の吸収源対策としての質を高めていくことも上位計画に位置付けがある。

イ 保全地区・保存樹木の指定解除について

事務局から説明後、1箇所の保全地区及び5本の保存樹木について、指定解除されたもの。

また、下記の質疑応答があったもの。

【質疑応答】

久野委員：今回の指定解除に地球温暖化の影響はあるか。

事務局：間接的に影響を受けていると思う。保存樹木の周辺において、温暖な地域で生育が旺盛なシイ等の常緑樹が巨木に成長して鬱蒼とした暗い森になっている。モミジは本来涼しい環境を好み高温乾燥に弱いことから、近年の猛暑に弱く、クロマツは日陰に弱いことから、樹勢が衰えて、病気や虫により枯れている。

吉川委員：東海市内において公園以外でクロマツがほとんど無いが、クロマツを保全する取組みの予定はあるか。

事務局：松を枯らす松くい虫を予防する薬剤を樹幹注入する事業と、枯れた松から他の松への感染を防ぐ伐倒駆除を行っている。

齋藤委員：松を伐採した後の景観の保全についての処置はどのようなか。

事務局：大池公園では、広場や園路に面した場所では桜の名所づくりとして松枯れ跡地に新たに桜を植樹するなど、場所に応じた今後の緑の景観づくりを進めている。また、大池公園では、松林にしか生息しない貴重種のハルゼミが生息している。地域の生物多様性の保全のためにも、貴重な松林を守る必要がある。

(6) 報告事項

ア 緑化、花いっぱい施策の実施状況について

事務局から説明後、下記の質疑応答があったもの。

【質疑応答】

長谷川委員：さくら再生プロジェクトについて、クビアカツヤカミキリが増えていて、名古屋市では対応が追い付いていない状況にある。クビアカツヤカミキリは入ったら最後なので、対応が後手に回らないようにしてほしい。また、市民と一緒にフラスが出ていないかを見て回るイベントを実施すると、結構人が集まるし、意識付けにもなるので、実施してほしい。

吉川委員：クビアカツヤカミキリやフラスの標本を施設に置いてほしい。また、シイの木についているナラタケモドキが、伐採することによって近くの桜に移ることがあるらしいので、伐採をする際は他の木へ影響が出ないか意識してほしい。

事務局：クビアカツヤカミキリは昨年大池公園でも1本の桜の木にフラスの発生と幼虫1匹を確認した。その後の調査では他に見つかっていないが、東海市の他の公園にも桜はあるので、注意している。

中村委員：クビアカツヤカミキリの存在を知らなかった。一般の市民は知

らないのではないかと。周知させる必要があると考える。

事務局：愛知県が作成したチラシなどを活用して周知していく。

橋山委員：クビアカツヤカミキリを東海市に入らせない対策はあるか。

事務局：名古屋市西区の発生地から東海市は、飛来可能な距離といわれているので、入らせないことは難しいと考えている。予防薬剤はあるが、現時点では一般的ではなく、早期発見して処分するしかない。今後も効果的な対策について情報収集に努める。

中村委員：花壇コンクール入賞花壇マップの細かい場所が分からない。個人宅でも、必ずしも見に来られて迷惑という人ばかりではないので、個人の入賞者でも見せてもよい人の花壇は公開して良いのではないかと。また、見に行きたい人が見に行けるような対策をして欲しい。

事務局：共同花壇については、おおよその地図を掲載しているので詳細な場所については問い合わせただけであればお伝えできる。個人宅に関しては、問い合わせがあれば市が仲介して、所有者に許可を得たうえで場所をお伝えすることは可能である。募集の際に了承を取る方法を試したが、教えてよいという人が多かったため、マップへの掲載についても検討する。

齋藤委員：公園にある木に樹名板をつけてほしい。本を見て分かるのではなく実物を見て分かることが子どもたちの教育の機会にもなるのでは。

事務局：大池公園には樹名板と季節の花や木の見どころを見て回るグリーンウォッチングコースマップを設置している。今後も公園管理事務所と協力して樹名板を増やすことを検討する。

吉川委員：加木屋緑地のフジバカマの花壇の評判が良く、たくさんの人が訪れてくれるが、他にはどこにあるか聞かれることがあり、市内のフジバカマ花壇の一覧表などがあれば返答に困らない。

事務局：市内のフジバカマの花畑がある公園の他、近隣市町も含め、マップを作成するなど検討する。

長谷川委員：花壇コンクールの賞の一つに、在来植物を使用した花壇の賞を設けて欲しい。東海市の緑の質も高まるし、早くネイチャーポジティブに近づくことになると思うがどうか。

事務局：花壇コンクールの部門の新設や、募集や審査のあり方について花のまちづくり運動推進委員会の意見も聴きながら検討する。

イ 緑の基本計画の改訂について

事務局から説明後、下記の質疑応答があったもの。

【質疑応答】

杉江委員：緑被率の現状はどのようなか。

事務局：令和7年度の数値は未だ出ていない。10年前の数字は、市街化区域での緑被率が13%であった。13%から30%まで上げるのは非常に難しいことである。測定方法も10年前とは変わっているので、次回の策定委員会で示せればと考えている。

岸本委員：緑陽公園の整備の見通しはどのようなか。

事務局：土地購入を行っている最中で、34ヘクタールのうち14ヘクタールは土地購入が終わっているが、残りの20ヘクタールが購入途中なので、まだ時間がかかるものである。

岡室会長：COP15では「30 by 30」（陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標）の目標年が2030年とされているが、市町村のマスタープランでもターゲット年があるのか。

事務局：これまでの緑の基本計画は10年計画で策定している。今回の改訂において、ターゲット年の設定を検討することは可能である。

(7) その他（自由意見）

なし

上記の内容について、委員及び事務局職員の発言内容の要約として相違ないことを証明するため、ここに署名する。

令和8年（2026年）3月6日

議事録署名者

吉川洋行